

## 二人旅

今年の5月、中村大五郎さん(42歳・真正寺門徒)が、京都のご本山まで自転車で向かわれました。このときの記事が5月20日付の本願寺新報にて掲載されました。

大五郎さんは昨年7月に弟さんをしくされ、失意の中、向かわれたのが京都のご本山でありました。弟に何かできる事があつたのではないかと、亡き弟さんとの二人旅に出る決意をされ、一週間かけて到着されました。



今年5月の二人旅の様子

無事福岡に戻られ、この旅を振り返っていたできました。「この旅に出る前、弟の死を受け入れられず、弟はどこに行つたんだろうと探し続けていました。しかし弟に教えてもらいました。迷っていたのは私の方でした。弟のために何かしてあげよう、とばかり考えていた私に、弟が気づかせてくれたんです。ね。仏様のお目当ては、そこで涙を流しているあなただよ。そのとき初めて、弟を仏様として仰ぐことができたんです。」そう語る大五郎さんの顔は笑顔でありました。

いつか聞かれた阿弥陀様のお話を思い出されたのかもしれない。阿弥陀さまのお目当ては、他の誰でもない、今ここで苦悩を抱えている私こそが目当てであると。苦悩する私と共に泣いてくださる慈しみの親様であると。

は消えないけれど、悲しみ苦しみを超えてゆける人生です。阿弥陀さまは、南無阿彌陀仏と常に私と一緒に結んでくださり、命終るとき、真実の世界「お浄土」に連れて往つてくださいます。そしてお浄土では、亡き方々と再びあう世界があると聞かせていただきます。阿弥陀さまの願いを、そして我が命の行く先を共に聞かせていただきます。人生は、悲しみや苦しみを乗り越えよう。

## スタン・プラリール表彰式



7月6日(木)重留真正寺様にて早良組スタン・プラリールの表彰式を執り行いました。表彰者は以下の方々です。

【30カ寺以上の参拝者(3名)】  
嶋田厚枝様(西光寺)  
松崎純子様(万徳寺)  
真子静子様(万徳寺)

【10カ寺以上の参拝者(6名)】  
関屋雄子様(真教寺)  
齋藤 涉様(明性寺)  
中村 忍様(明性寺)  
正崎朋子様(西教寺)  
坂口綾子様(西應寺)  
青柳 鏡代様(西應寺)

勤行の後、30カ寺以上参拝の方々には表彰状と記念品を、10カ寺以上参拝の方々には記念品をお贈りいたしました。その後、記念撮影をし、お茶を頂きながら、参拝された思いや感想をお聞き

かせ頂きました。「早良組内各寺院を参拝するきっかけを作っていただき、たのしく参拝することができました。」

「昨年度行けなかつたお寺に参拝したいので、本年度も開催されるならぜひ参加します。」

また10カ寺以下の参拝の方もたくさんおられました。早良組の皆様が、ご自分のお寺はもとより、広い早良組内のお寺に足を運ばれ、多くの尊いご縁に遇っていたことを、有したことを、有

り難く思いますとともに、ご協力ご参加していただいたことに感謝申し上げます。尚、本年度も早良組スタン・プラリールを開催いたしますので、どうぞお気軽に各寺院へ参拝されますようお願い致します。

## 関東在住門信徒の集い

早良組活動計画の一環であります、御同期の社会をめざす運動(実践運動)の「関東在住門信徒の集い」を平成29年7月1日(土)築地本願寺講堂にて開催させて頂きました。

門信徒36名・法中18名のご参加をいただき、お勤めの作法・勤行・法話・懇親会等を行い、賑やかなうちに閉式いたしました。

参加者の中には、早良の地でお寺のご縁を頂いたことを喜ばれ、福岡での生活の暮らしやすさ、人と人との繋がりがやばかしさをお話しくださいました。

「関東移住後、京都の本願寺には参拝しましたが、築地本願寺は初めてです。今回の集いが無ければ来たかどうか」と言われた方もおられ、ご縁をいただいた事を喜んでおられました。

福岡より飛行時間は1時間30分、距離にして直線で約900キロ、遠く離れているように思われますが、参加者の皆様との間に、時間・距離を感じる事が無かったのは私だけだったでしょうか。

この度の集いにご協力いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。



平成29年7月1日(土) 築地本願寺講堂にて

げ、そしてご参加いただきました門信徒の皆様には、この度のご縁を機に、ますますお念仏のご縁に遇われますようお願いいたします。 合掌

早良組組長 青木秀美

## 人生の節目は 仏前で。

早良組 だより



# 人生の節目は 仏前で。

## 初参式

赤ちゃんが仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて生きていけるよう、人生の出発にあたり、その誕生を仏さまにご報告する式です。

浄土真宗の門徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが初めてお寺にお参りする初参式は、子にとってはじめての仏縁ですが、同時に親にとっても、親として生きる出発点であり、子によっていただいた尊い仏縁でもあります。恵まれた新しいのちを阿弥陀さまの御前にて、ご家族、またご縁ある方々と共に祝いましょう。



## 成人式

二十歳になると一人前の社会人としての権利と責任が生じます。この時をご縁として親鸞聖人のみ教えに出遇っていただき、これまで育ててくださったご恩に感謝するとともに、以後の人生を念仏者として力強く生き抜くことを阿弥陀さまの御前にて誓う儀式が成人式です。本願寺では、毎年一月の御正忌報恩講期間の日曜日に大勢の新成人が参拝して帰敬式を受式し、成人式が行われます。



## 帰敬式(おかみそり)

帰敬式とは、阿弥陀さま・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。この帰敬式を受式され、仏弟子となった方には本願寺住職(ご門主さま)より法名が授与されます。一般的に、「法名は死後にいただくもの」と思われていますが、本来は生前にいただくものです。できるだけ早く帰敬式を受式し、共にお念仏を喜ぶ人生を歩みましょう。

本願寺ではほぼ毎日、帰敬式が執り行われています。

## 葬儀

人生でもっとも悲しい別れである“死”という現実と直面することは、決してそこから目をそむけたり、他人事にせず、私に真実のみ教えに遇わせていただくことの大切さを教えてくれます。阿弥陀さまのご本願のすくいに遇うことは、死んで闇の世界へいくのではなく、人生に敗北するのでもありません。さとりの世界・光の世界である“お浄土”に生まれさせていただくのです。それは同時に、この上ないさとの仏と成らせていただくことです。亡き方をご縁として私の行き生まれるお浄土について聞かせていただく大切な仏事でもあります。



## 葬儀

## 還暦式



## 還暦式

還暦を迎えられた方が、阿弥陀さまの御前にて人生を振り返り、これからの人生を過ごす上で阿弥陀さまをよりどころとし、確かな歩みをさせていただく法縁です。同年の方と還暦式を受けられれば、喜びも深まるのではないのでしょうか。



## 帰敬式

## 仏前結婚式

お寺は葬儀や、法事をするところと思っていませんか？  
「神社で結婚式」「教会で結婚式」「お寺で結婚式」  
「神主さん」「神父さん・牧師さん」「お坊さん」  
仏式の結婚式を、仏前結婚式といひます。

新郎新婦が、ご両親をはじめ多くの方々のお育てによって、この日を迎えることができたという感謝の気持ちを忘れず、悲しい時もうれしい時も、互いに助け合いながら生きていくという決意を、阿弥陀さまの御前で報告する儀式です。仏前結婚式という選択肢はいかがでしょうか？厳かで、温かみのある結婚式になることでしょう。



## 結婚式

## 成人式

## 初参式



人生には、三度の誕生があるといわれています。一度目は、この世に人として生まれさせていただいた時です。二度目は、浄土真宗の門徒として生きることを明確にするため、仏祖の御前で「三歸依文」を唱和し、「おかみそり」を受け、「法名」をいただく時です。三度目は、浄土に往生し仏と成らせていただく時をいいます。一度目と三度目は、自分の意思で行うことはできませんが、二度目の誕生は浄土真宗に遇うご縁があったのですから、自分の意思で行いたいものです。また、誕生から往生まで、その人生の節目節目にはさまざまなお通儀(〇〇式)と呼ばれるものがあります。世間一般では「お寺＝死」というイメージから、お寺といえば葬儀や法事お墓参り……といった少し暗くて楽しくないイメージを持っておられる方が多いと思います。また世の中の風習や流行で他の宗教の儀礼を行ったりしていないのでしょうか。でも、実際には、おめでたい、華やかな儀式も全てお寺で執り行うことができます。



## その他の儀式



その他の儀式として次のようなものがあります。

- 入仏式 … ご家庭にご本尊(お仏壇)をお迎えした際に行う。「人が亡くなってからでないと仏壇は必要ない」と考えていませんか？いわゆるご本家だけでなく、故郷を離れた方、ひとり住まいの学生の方にもご本尊を安置していただき、すべての方に、ご本尊の前で、いのちのあり方を顧み、その大切さを受け止めていただきたいものです。
- 建碑式 … 新しく墓石や記念碑を建立した時に行う。
- 起工式 … 家を新築する際、工事を始める前に行う。
- 上棟式 … 棟が上がった際に行う。

人は生まれて成長し、年を重ねていきます。その人生の節目節目にはさまざまなお通儀(〇〇式)があります。仏前での行事は、ただ形だけの儀式ではなく、深い教えに基づいて、その人生を意義あるものにするように願われています。私たちが人生のなかで儀式や法要を行うのは、うれしい時も悲しい時も、静かに阿弥陀さまの前で手を合わせ、人生のよりどころとなる仏法を聞かせていただく尊い仏縁の場であり、新たな人生の門出の決意表明の場でもあるのです。どうぞ、お手次のご住職にご相談になり、人生の節目は仏前にて行ってください。